

# 中経 論壇

経営支援NPOクラブ参与  
吉田 仁



兼好法師は、住まいには大きな関心を持つていたように、徒然草の中で衣食については触れていないが、住居については多くの記述がある。家のたたずまいや家具調度などについていろいろな段で触れ、華美でないのがよいとか、遊びの空間をつくるべきとか、天井が高いのはよくないとか具体的な挙げているが、夏を中心に考えて建てるべきと主張しているのが面白い。

「夏涼しく冬暖かく」を旨指すエアサイクルという建築工法がある。天然素材を使用し、自然エネルギーを活用することにより、エアコン利用を少なくする住居作りを目指している。仕組みは、断熱材を外張りにして壁に空間を作り、その中に空気を循環させることにより、室内の温度と湿度を調整するというものがある。市川小奈枝氏は、エアサイクル工法の開発者から事業を引き継ぎ、個人住宅の建築を行ってきた。

現在は、ひらいホールディングスの傘下で、特に夏の暑さ対策にこだわり、エアサイクルの中でも越屋根(こしや

## 夏涼しい家づくり

ね)部に特徴を持たせた住宅「エアサイクルワン」を提供している。断熱材による遮熱と越屋根から空気を逃がすことにより、涼しさを得られるようにするものだ。市川氏の基本姿勢は、顧客との徹底的なコミュニケーションにある。顧客の要望を丁寧に聞き取り、エアサイクルの仕組みを説明し納得いただいたうえで設計にかかるといふ。顧客には、健康に配慮し、天然素材の使用と省エネを指す人が多い。引き渡し後も顧客との関係は続き、「結露を防ぐことでカビ・ダニの発生を抑制でき

た」「壁や床などが湿気で傷むのを防げた」「風の利用で家に熱気がこもらず快適」などのコメントが寄せられている。建築コストは若干高くなるが、節電効果などで経済的にもマイナスはならないようだ。住宅は、一生のうちで最大の買い物と言われるが、それだけに顧客に喜んでもらえることが大きな喜びと市川氏は言う。

先の兼好は、家の作りをみればその人となりか推量できると書いているが、エアサイクルの顧客は、地球温暖化を憂慮し、省エネに努めるライフスタイルの人なのだろう。私は、1年前に本欄で、「不快のデザイン展」に寄せて、「クーラーの快適さを捨て、日常の雑事から解放されて、スローライフを楽しみ、心身のリフレッシュをはかりたい」と書いたが、市川氏の思いを聞くにつけ、将来はエアサイクルワンの家を建て、省エネの生活を送ってみようかと思っている。

# 省エネ住宅への建築家の思い